

Port みなとの施設

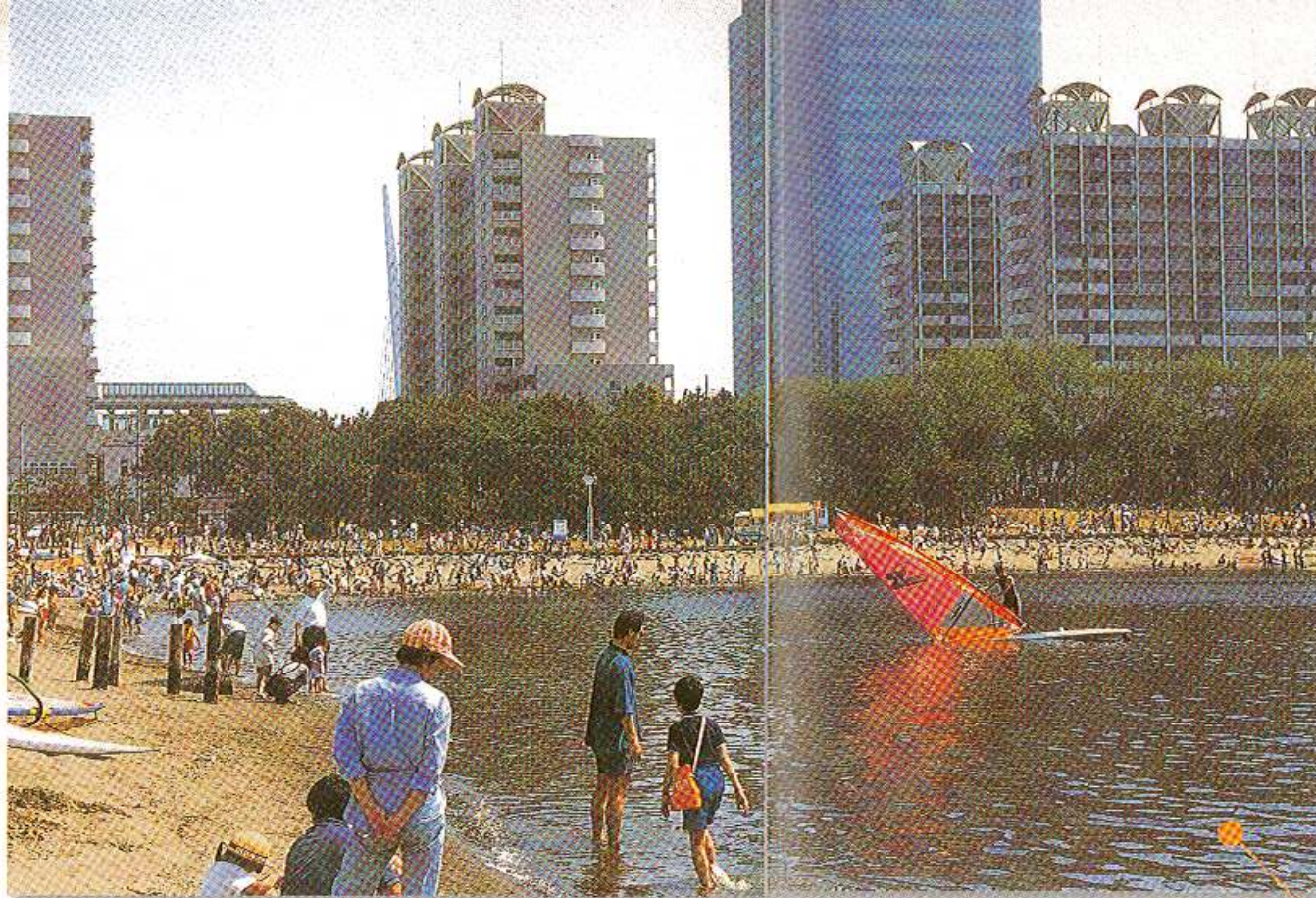
Ports-
gateway
to the world

快適な水際空間 では、人々が集い、 人と生物が 共生しています

みなとは物流、産業の拠点として、わたしたちの暮らしを豊かに、快適にしてきましたが、みなとの役割はそればかりではありません。人々が憩い、楽しむための場所をつくることもみなとの大切な役割のひとつです。全国のみなとには、水族館や海洋博物館、海浜公園や緑地など、人々が集うことができ、また、気軽に海や生物とふれあうことのできる場所があります。

さらに、みなとでは、地球環境時代にふさわしい生物・生態系にも配慮した環境の保全・創造に取り組んでいます。

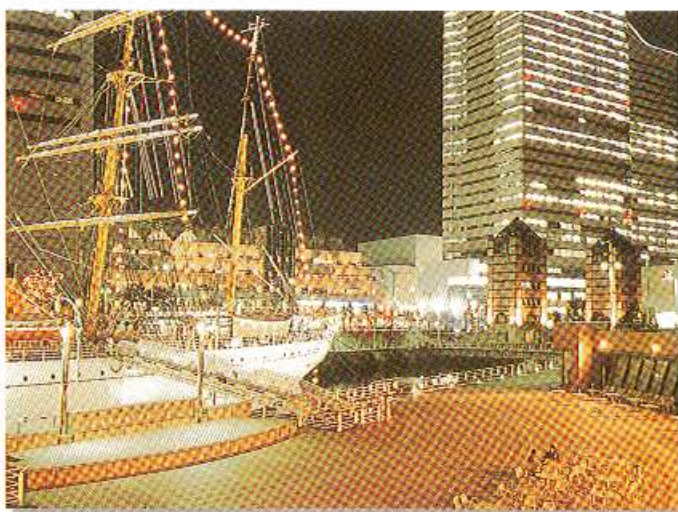
これからのみなとづくりは、人間だけでなく、生物も共にくつろげる空間を目指しています。



東京・お台場海浜公園



北九州港・門司港レトロ地区



横浜港・日本丸メモリアルパーク

みなとには、 笑顔が集まる 場所があります

現在、みなとは市民の憩いの場としても人気を集めています。工場の跡地を再整備したことで多くの人々にぎわうようになった横浜港のMM21地区をはじめ、全国各地のみなとで緑地や展望施設、水族館、レストランなどの賑わい施設が整備され、新たなレジャースポットとして人々が集い楽しむことのできる空間となっています。



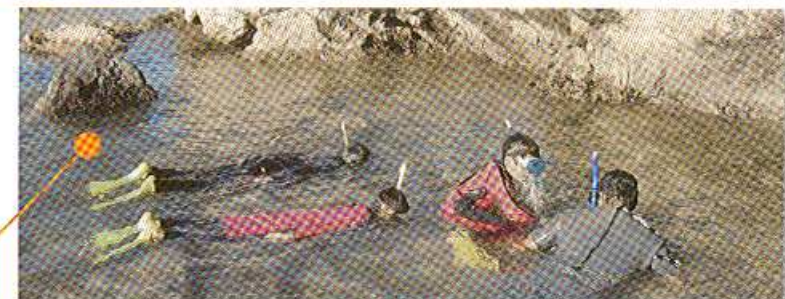
小樽港マリーナ



広島港(五日市)の人工干潟

干潟には、海辺の生物が たくさん集まっています

現在、各地のみなとでは干潟や海浜の保全・再生・創造が行われ、多様な生物が生息する空間づくりが進められています。干潟は海と陸と大気が接する場所として、生物のオアシスとなっています。また、干潟は海水の浄化機能にもすぐれているため、海中の環境保護にも役立ちます。全国に整備された人工干潟には、サギなどの水鳥たちが数多く飛来し、ゆっくりと羽を休めています。



館山港(千葉県)における「海辺の自然学校」の試行

海辺での自然体験活動を進めています

近年、海辺は、身近に自然とふれあい、観察できる貴重な空間として注目されています。特に、大都市圏を中心として海に接したいというニーズが非常に高く、今後は海辺の地理的多様性や生物・動植物の豊かさを活かした体験型の活動が展開していくものと予想されます。このため、将来を担う子どもたちの自然体験活動や環境教育の場を提供するとともに、これら活動の支援を積極的に進めています。



津田港海岸(香川県)

暮らしを守り、海にも親しめる 海岸づくりを進めています

高潮などの被害から暮らしや財産を守るために造られた護岸の多くは、安全性と引き替えに、暮らしから海を遠ざけてしまいました。このため、護岸、砂浜、離岸堤などを組み合わせて、災害にねばり強く、施設の耐久性に優れ、平常時には海辺へ容易に行くことのできる「面的防護方式」による整備が進められています。